

海外株式プラス型(CS)特別勘定 運用状況(2010年11月末現在)

運用方針

- 主に海外の主要国ならびに新興成長国の株式を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、積極的に高い投資成果を目指します。
- 海外の主要国の株式に50%程度、新興成長国の株式に50%程度投資することを基本とします。ただし、市況動向等を勘案して、当該配分を変更することがあります。
- 原則として為替ヘッジは行いません。
- 運用にあたっては、運用スタイルの分散や運用会社の固有リスクの分散を図るため、基本的に当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、各特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行ってまいります。

資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	2,716,676	99.0%
現預金・その他	27,815	1.0%
合計	2,744,492	100.0%

運用状況

2010年11月の世界株式市場は、MSCI KOKUSAI(現地通貨ベース)で0.95%下落しました。米国株式市場は月の上旬は、FRB(米連邦準備制度理事会)が追加金融緩和に踏み切ったこと等を好感し上昇しましたが、月末にかけてはアイルランドを始めとする欧州周辺国の財政懸念や朝鮮半島を巡る緊張の高まりを受け、下落基調での推移となりました。ドイツの株式市場は欧州周辺国の財政懸念が高まり、欧州主要国の株式市場が下落する中、堅調なIfo景況感指数やユーロ圏景況感指数等を受け、上昇しました。このような市場環境の中、円安ドル高の進行もあり、当特別勘定は2.80%上昇しました。

現在、「ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1」、「アムンディ・ロシア東欧株ファンド」、「JFアジア株・アクティブ・オープンVA」および「JPM・BRICS5ファンド」に投資しています。

11月は資金移動に合わせて、「ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1」および「JFアジア株・アクティブ・オープンVA」の購入を行いました。

12月についても、これらのファンドへの投資を継続する方針ですが、ファンドへの投資配分・入れ替えについては適宜検討します。

ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/22ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

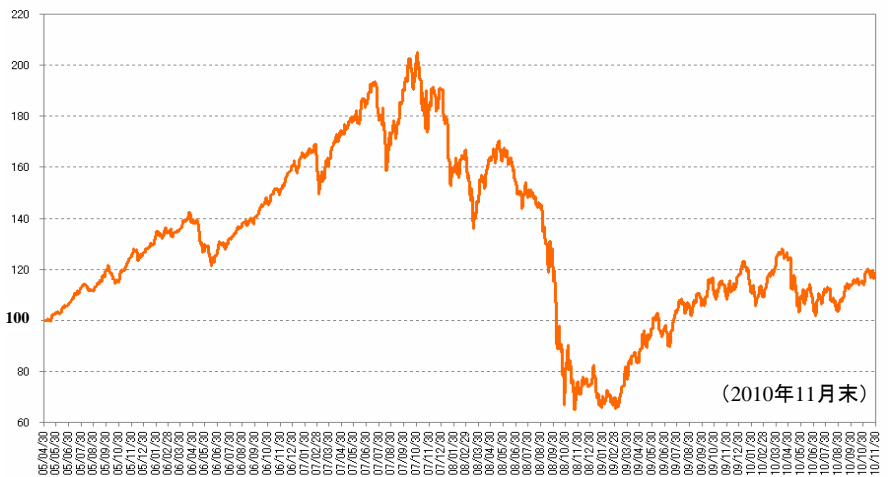
当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定率
117.37806274	+2.80%	+12.14%	+7.24%	+8.69%	▲35.99%	+17.38%

(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点(100)として数値化したものです。

ユニット・プライスの推移(運用開始日:2005年5月1日)



ポートフォリオの状況

[基本配分]

海外主要国
50%程度

新興成長国
50%程度

[組入れ投資信託(投資比率)]

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1(49.2%) : p13上段

アムンディ・ロシア東欧株ファンド(10.1%) : p14上段

JFアジア株・アクティブ・オープンVA(22.2%) : p13下段

JPM・BRICS5ファンド(17.5%) : p14下段

現預金・その他(1.0%)

(注)「p13上段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。